

*KASADERA in 2017*



# 笠寺

かさでら駅  
名古屋市南区  
昭和18年開業

# ひと筋ののぞみが空を飛ぶ

在来線も新幹線も一旦地上に下り、周囲が貨物ターミナルとなるところで、新幹線だけが高架に上がっていく。その勾配の途中、桁も低い線路の直下に、かつて笠寺の駅舎が詰め込まれていた。まだ名古屋駅までは距離があり、新幹線の車両は相当なスピードを保ったままだから、この駅で働く職員にしろ、待ち合わせする利用客にしろ、頭上から叩きつける轟音には、かなり恐怖を感じたのではないだろうか。

貨物線の軌条群の裏側に名古屋市総合体育館が完成し、そのアクセス駅とするために橋上駅舎が新設されたのは昭和六

三年のこと。後に新幹線高架下の駅施設は撤去され、間口を広げて単なる通路となった。簡素な造りの新駅舎に対して、旧来の表側である東口は、駅の存在を主張するかのようになり化粧直しされている。

今では、体育館側となる西口の利用がメインとなっているせいか、鉄道写真の名所として取り上げられることが、意外と少ない。けれども、笠寺駅の東口から間近に見上げる新幹線は、唯一無二の迫力。こちら側の駅前には再開発もされず、空虚さが漂う。騒音の激しさもネックとなっていようけれども、それも逆手に取れば、新幹線ビューイングの名所として、スペースを有効活用する手立てがありそうだ。